

ライフサイクル思考でプラスチック問題を斬る

オーガナイザー： 中谷 隼（東京大学）

趣旨

海洋プラスチック汚染に端を発して世界的にプラスチック問題が強い関心を集める中、日本政府は「プラスチック資源循環戦略」を策定し、排出抑制やリサイクル、バイオマスプラスチックなどについて踏み込んだ目標を掲げた。

そうした高い注目度の一方で、プラスチック問題を報じる記事の中には、プラスチックや資源循環についての基本的な理解が不足していると思われる内容や、必ずしも問題解決に結び付かないような対策を推し進めるような論調も多い。プラスチック資源循環戦略にしても、基礎となるべき現状認識が不十分なまま、目標値が独り歩きしている嫌いもある。

こうしたプラスチック問題に関する不見識の一因には、ライフサイクル思考の欠如があると思われる。

本企画セッションでは、日本 LCA 学会を活動の場としてきたライフサイクル研究者による話題提供と、メディアからの登壇者を交えたパネルディスカッションを通して、海洋プラスチック汚染、バイオプラスチック、資源循環から、それらに関するリテラシー、学術研究と一般社会の認識のギャップまで、幅広い視点から問題解決を志向したプラスチック対策について議論する。

プログラム

9:20～ 9:25 本企画セッションの趣旨説明 中谷 隼（東京大学）

9:25～ 9:50 ライフサイクル研究者による話題提供

伊坪 徳宏（東京都市大学） 「海洋プラスチック汚染のインパクト評価に向けて」
松八重 一代（東北大学） 「大学におけるプラスチック対策」
中谷 隼（東京大学） 「物質フローと再生技術から見たプラスチック資源循環戦略」
菊池 康紀（東京大学） 「ライフサイクル思考に基づくプラスチックリテラシーの体系化」

09:50～10:30 メディアを交えたパネルディスカッション 司会： 福島 康裕（東北大学）

論点： プラスチック問題に対する消費者・マスコミ・政府の誤解とは？
ライフサイクル的に有意義な/無意味なプラスチック対策・政策とは？
プラスチック問題に関する学術研究と一般社会の認識のギャップとは？
ライフサイクル研究はプラスチック問題に対して貢献できるのか？

パネリスト： 田中 太郎（日経 ESG 編集長） 伊坪 徳宏（東京都市大学）
松八重 一代（東北大学） 菊池 康紀（東京大学） 中谷 隼（東京大学）

10:30～10:40 質疑応答